

建設防災 ボランティアニュース 第 35 号

平成 21 年度建設局初動対応訓練の実施

建設局職員の災害発生時における対応能力向上を図ることを目的に、平成 21 年度の初動対応訓練が平成 22 年 2 月 5 日(金)、午前 7 時 30 分から 12 時まで行われました。今年度の訓練のポイントは 参集後の訓練対象者範囲を拡大する、複数の情報通信手段を用いる、第一建設事務所及び東部・西部公園緑地事務所の参集人員の平準化を図る、災害発生時における局本部の判断力向上を図る、でした。

訓練は 7 時 30 分からの参集訓練に始まり、参集後はフェーズ 1 として本部開設訓練、情報連絡訓練、フェーズ 2 として点検出動訓練、情報連絡訓練、支援班訓練が行われました。防災ボランティア協会からは、参集訓練からの訓練に 15 名、フェーズ 2 からの訓練に 47 名、計 62 名の会員が参加しました。

訓練参加者数

事務所	参集訓練から参加	フェーズ 2 から参加	計
一建班		5 名	5 名
二建班		5 名	5 名
三建班	5 名		5 名
四建班		6 名	6 名
五建班		5 名	5 名
六建班	4 名	1 名	5 名
西建班		3 名	3 名
南東建班		8 名	8 名
南西建班	3 名	1 名	4 名
北南建班		4 名	4 名
北北建班	1 名	4 名	5 名
東部公園班		4 名	4 名
西部公園班	2 名	1 名	3 名
合計	15 名	47 名	62 名

当日は寒波の影響で、朝方は冷え込みが厳しく氷点下となる地域もあり、参集訓練に参加され

た方には厳しい訓練となりましたが、徐々に気温も上がり、点検出動訓練の頃には、新しい防寒着のおかげもあり、それほど寒さを感じないで活動出来ました。

今回の訓練では、GPS 付き携帯電話を利用した道路災害の情報収集システム(レスナビ)等の新しい情報連絡訓練も体験でき、またテレビ会議では、道家都技監からボランティア会員の訓練参加・協力にお礼のお言葉をいただきました。お忙しい中、訓練にご参加いただいた会員の方々、そして一緒に活動いただきました事務所の皆様方に、心より御礼申し上げます。

担当理事 本間 弘

事務所からの報告

1. 三建班

平成 22 年 2 月 5 日(金)午前 7 時 00 分に東京湾北部を震源とする大規模地震が発生したという想定で、初動対応訓練が行なわれました。

参加した会員 5 名は、午前 7 時 30 分に自宅を出発し、三建に到着後参集経路を地図に記入し提出した。



集合した参加会員

7 時 45 分に本部が開設され、9 時 00 分時点 49 名中 39 名、11 時 07 分全員参集の結果を本部に

報告し参集訓練は完了しました。初動態勢の確保として、フェーズ（発生から1～2時間経過後）とフェイズ（発生から5～6時間経過後）があり、飯山氏と雑賀氏はフェイズに参加した。（8時45分点検出動・10時10分帰庁）その中で今回新しい通信手段として、レスキュー・ナビ（GPS付携帯電話）とユビキタスネットワーク（ICタグリーダー使用）活用の有効性確認が実施された。



レスキュー・ナビゲーションの画面



GPS付携帯電話とICタグリーダー

高本氏、井出氏と川口はフェイズに参加した。（9時45分点検出動・11時10分帰庁）快晴の中6名はデジカメと無線機を持ち被害想定箇所を目指し早稲田通りを西へ向った。

現地到着時点では本部との無線交信はうまくいかず、帰路本部に近づいてようやく交信出来た。ビルによる電波障害が原因でしょうか。我々は日照障害により寒さが身に凍みた。

最後に副所長より、テレビ会議で事務所間の応援体制が取られた話があり、午前中に訓練は終了した。関係者の皆様お疲れさまでした。

三建班 川口 真人

2. 南東建班

平成21年度の建設局初動対応訓練が、平成22年2月5日に行われた。南東建班も日頃の道路点検などと同じく8名という多数のメンバーが参加し事務所の皆さんと力を合わせて訓練を実施した。

当班は日頃より南東建と意見交換会を開催するなど親密な関係を構築しており、こういったイベントにもメンバーが大勢積極的に参加するなど活動のポテンシャルの高い事務所である。

今回の初動対応訓練は要綱にも記載されているように、事務所間のバランスを図ったり、IT機器を積極的に導入するなど新しい試みを多数実践した。

管内の被災現場の一つは、町田街道と成瀬街道の交差部で地震のため橋梁部からコンクリート片の落下物があるという設定で、二つ目は鎌倉街道の本町田地区での工事現場で土嚢が脱落したという想定で訓練を行った。例年の現場点検の訓練は2～3箇所の被害が起こった現場を点検し、事務所に戻って報告するものであった。

しかしながら今回は被害の状況をいち早く把握するため、レスナビを活用した訓練を行い、事務所の作戦本部に現地から画像で送られた状況がリアルに分かる訓練を行った。我々防災ボランティアのメンバーも事務所の皆さんと3班に分かれ現地の初期点検と被害箇所に応急対策を施したあとの状況を点検し作戦本部に報告するという訓練を行った。



作戦本部の状況

現地の画像を作戦本部のパソコンに写し出す訓練では、最初はなかなか画像が立ち上がらなく、いろいろ点検をするうちに綺麗な画像が映りだされた。やはり日頃の訓練の必要性が大切であるこ

とを実感した。

また、現場との交信は電話回線や携帯電話が不通になる恐れもあり無線機を使用した。作戦本部を置いた会議室は少し電波障害のため交信に支障があり、災害の本番の時には作戦本部は電波の交信の可能な部屋にするか当会議室に無線交信ができる措置を施す必要があることが判明した。

被災箇所の2箇所以外にも、ビル火災や道路上のトラブルが発生したとの本番さながらの状況を想定した訓練も行った。我々防災ボランティアも3名が作戦本部にはりつき、現地から入ってくる情報を報告書にまとめるなど現役時代に培った知識をフル活用しながら活動した。

参集訓練については、以前は事務所4キロ以内の職員を対象としていたが、昨年度から10キロに広げた訓練に変えており、徒歩で参集する職員も途中で道路や河川等の点検しながら参集するという効果ある訓練であった。

さらに今回はIT機器のリアルな活用ということで、テレビ会議も復活し、建設局の本部と各事務所を総合的に結ぶ訓練を行った。今回の訓練の基本想定として、東京湾北部を震源とする大規模地震(震度6弱)が当日の午前7時に発生し都内で広域的な被害が、発生しているという想定である。



井上副所長の講評

そのため下町地区を所管する五建・六建の被害が甚大で当該事務所の職員だけでは災害対応ができないとの危惧があり、建設局本部へ五建・六建から職員の応援要請がなされ、本部から三建・西建・南東建へ応援体制の指示があった。

各事務所では所管の被害等を勘案の上、応援が可能な事務所より被害の大きい事務所へ職員

が派遣されることがテレビ会議で決定となった。このようなやりとりは、やはりIT機器の導入の大きな成果であり、各事務所が一堂に会したと同じ機能が可能となり本番の災害時には大きなツールとなることが訓練を通じて証明された。

この訓練を行って様々な問題点が浮かび上がってきた。今後はこれらの問題点を改善しながら、地道に定期的こういった訓練を繰り返し、身をもって対応出来るようにする必要を強く感じたところである。

お昼近くには訓練も終わったので、防災ボランティアのメンバー全員で昼食を共にしながら訓練で生じた問題点等を口角泡を飛ばしながら反省会を行い、楽しいひと時を過ごしたことを付け加えておく。

南東建班 原田 龍次

3. 南西建班

2月5日(金)午前7時30分から12時まで実施された初動対応訓練に、南西建では、防災ボランティアとして矢野末義、吉田安輝、中込孝二、田上嘉一の4名が参加しました。

参集訓練には、矢野、吉田、中込が自発的に参加しました。田上はフェーズ2からの参加要員だったので余裕をみて9時頃事務所本部に到着しました。

フェーズ1の訓練に引き続き、9時30分からフェーズ2の訓練が開始され、私達4名は応急対策班に編入されて点検出動訓練を行いました。

点検箇所は3箇所。甲州街道で広告柱、街路樹等が倒壊 野猿街道の北野橋で橋台背面の陥没等 山田川で護岸の崩壊等の被害を想定し、3班に分かれて現場点検を行いました。

このうち、矢野が班長となった第3班は、9時40分に事務所本部を出発し、10時頃現場に到着して点検を行い、直ちに携帯電話で本部へ被害状況を報告のうえ、協力会社に河積阻害土砂の撤去を依頼し、10時37分に帰所しました。

帰所後、被害状況報告書を作成のうえ本部長へ報告し、他の2班も11時までには帰所し、点検出動訓練は無事終了しました。

当日は、冷え込みが厳しく、八王子では最低気温マイナス5 まで下がりましたが、幸い快晴で風もなく、会員達は寒さにもめげず元気に活動しました。

その後、被害状況の集計と報告、テレビ会議、

支援班による炊出し訓練が行われ、最後に山本南西建所長より講評があり、12時に初動対応訓練は滞りなく終了しました。

いうまでもなく、道路、橋梁、河川は、重要な社会基盤施設であり、災害時にこれら施設の応急対策・早急な復旧工事が、社会生活や産業活動の被害を最小限に食い止めるうえで決め手になるといっても過言ではありません。

私達防災ボランティアもその支援の一助となれるよう、これからも積極的に参加していきたいと思いました。

南西建班 田上 嘉一

平成21年度防災講習会の開催

本年度の防災講習会は、43名の会員が参加して、昨年に続き土木技術支援・人材育成センターのご協力により、震災時の道路通行障害予測とその対策に関する情報連絡に威力を発揮すると思われ、また「レスキュー・ナビゲーションシステム」について講演していただきました。

お忙しい中、川合所長、荒井課長に御出席していただき御礼申し上げます。

担当理事小山、加藤、藤田

防災講習会の報告

21年度の防災講習会は、土木技術支援・人材育成センターの協力を得て、3月3日東京都道路保全公社会議室で開催されました。

川合所長のご挨拶、荒井技術支援課長の事業説明の中で、センターは現場をサポートする技術支援と、新たに人材育成(技術研修と技術継承)に取り組むことになったそうです。



川合所長の挨拶



荒井課長の事業説明

講演は「レスキュー・ナビゲーションシステム」について、同センター技術支援課小川好さんと、道路管理部保全課小池正貴さんが講師です。



小川好さんの講演



小池さんの講演

小川さんは、阪神淡路大地震の事例等を使って震災発生時の道路通行障害が発生する状況と、道路交通網に対する様々な交通需要が時間経過により変化することを分かりやすく説明頂きました。そして震災時には被害情報の早期収集が重要だと述べられました。

小池さんは、「レスキュー・ナビゲーションシステム」は、GPS 機能付き携帯電話を使って正確な位置情報と簡単に被害情報を送信できること、来年度は全事務所の初動対応訓練で使用する、西建は日常の道路点検で斜面管理に活用していることと説明がありました。

実際に講習会の様子を撮影しホストに送信する実験も行いました。

情報伝達の技術進歩とセキュリティの重要性、そして使いこなすための訓練の大切さを痛感しました。

南西建班 吉田安輝

南東建と第 3 回意見交換会を実施

～技術の継承を目指して～

去る 22 年 2 月 24 日、南東建事務所職員との第 3 回意見交換会を事務所会議室で行いましたのでその概要を報告いたします。

この意見交換会は、都OBの持っている知恵や経験を現役職員に提供し、意見交換を通じて現役職員の技術力向上と都市基盤整備の円滑な推進を図ろうとするものです。平成 19 年 11 月 30 日に南東建所長と南東建リーダーとの間で覚書が締結され、以来、毎年実施しているものです。

19 年度は杉本隆男さんの「東京の地形・地質条件を考慮した土留め・山留め工の計画のポイント」、20 年度は大坪安則さんの「なぜ、街づくり、都市基盤整備が必要か～若手職員の皆様に伝えたいこと～」といずれも技術職 OB の視点からのものでしたが、今回は事務職 OB の視点から「用地」をテーマに行うことになりました。



四方所長の挨拶

講師は東京都の用地業務の先駆者とも言える

植杉隆夫氏にお願いしました。



講演会の状況

当日の出席者は、南東建から所長はじめ管理職を含め 32 名、当協会から原田、杉本、植杉、平瀬、本間、丸岡の 6 名が参加しました。

会議は吉田庶務課長の司会で進められ、最初に四方所長から団塊世代の大量退職により技術やノウハウの継承が大きな課題になっている中で、建設局では技術マイスター制度が発足した。南東建からは 3 名のマイスターが指名された。本日の講師は用地のマイスターともいえる方であり、今日はそのノウハウ等を披露していただけるものとの挨拶があった。

演題は「用地買収ア・ラ・カルト」として、植杉氏が昭和 35 年に都庁に入ってから退職し、現在までの 50 余年に渉る用地経験を基に題材を選び話された。

最初に従事したオリンピック関連道路整備のための用地買収では、統一基準のない中での折衝や移転先の確保で苦労されたこと、その経験を基に建設省の補償基準や建設局の補償算定要領・用地事務提要の策定に参画し、今日の都や局の用地事務の基礎づくりに携わったこと、また、用地折衝の事例紹介では、不法占拠者の立ち退きや寺院墓地の用地買収など困難な案件をいかに解決していったかなどの苦労話をユーモア交えて話された。

そうした経験から用地事務に必要とされる能力（面談技術・説明説得能力、専門知識、達成意欲・信念・行動力）や人物面での適格性（常識があること、人間が好きであること、冷静に対話ができること、バランス感覚があること）などを分かり易く説明をされ、「誠意こそが用地折衝の極意のすべてである」と締めくくった。



講師を務めた植杉会員

講演後の意見交換では、環状八号線での墓地の事例以外のものがあれば教えて欲しいバランス感覚とは具体的にはどのようなものかなどが出され、事務所職員が現場でいかに苦労されているかの様子が伺われた。

最後に、植杉氏から、これまでの経験を踏まえ行政や業界をサポートするものの一つとして氏が長年温めてきた(仮称)公共事業支援センターなるものも紹介された。

会議は、講師の現場感覚に基づいた貴重な話を分かりやすく、ユーモアを交えて話されたせいも、真剣な中にも笑い声も出て和やかな雰囲気終了した。

私どもにこのような場を企画・提供してくださった、四方所長を始め南東建の管理職、職員の皆さんに感謝を申したいと思います。

南東建班 丸岡 敏夫

協会からのお知らせ

1. 新入会員の紹介

澤田 昌文 (H22.03、東 公)

栗坂 伸生 (H22.03、四 建)

敬称略()内は、入会年月、参集事務所

2. 平成 22 年度勝どき研修会開催のお知らせ

支援会員のご協力のもと、この5月で勝どきミニツアーも5周年を迎えます。

今年度の研修会を**5月13日(木)**にこれまでと同様、**築地市場厚生会館**で**15時30分**から開催します。

21年度の案内実績の報告後、橋の資料館木住野館長から「外国における最新の可動橋事情」をテーマにお話を頂きます。

研修会終了後、**引き続き同会場で懇親会**を行います。支援会員の皆様には別途、出欠のご案内をいたしますが、奮ってご参加下さるようお願い申し上げます。

担当理事 新井敏男、堀中逸

3. 平成 22 年度建設防災ボランティア総会

今年度の総会は、下記のとおり開催します。

総会終了後に第二庁舎4階で懇親会を行います。

多くの会員の参加をお待ちしています。

日 時: **平成 22 年 6 月 23 日(水)14:30~**

場 所: **道路整備保全公社大会議室**

4. 建設防災ボランティアリーダー会議

今年度の第1回会議を下記のとおり開催します、各事務リーダー並びにサブリーダーの方よろしくお願いします。

日 時: **平成 22 年 6 月 30 日(水)15:00~**

場 所: **道路整備保全公社大会議室**

5. 東京都道路整備保全公社の人事異動

長い間当協会の窓口を担当していただきました公益事業課「長谷川光子さん」が3月31日付けで退職されました。これまでのご尽力に紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

なお、後任には「野村美子さん」が就任されました。野村美子さんには、これまでと同様に本協会活動にご支援・ご協力をお願いいたします。

発行人: 沼尻 孰

発 行: 東京都建設防災ボランティア協会

所在地: 東京都新宿区西新宿 2-3-1

財団法人 東京都道路整備保全公社内

編 集: 加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫